

ウクライナ危機と石油市場

一般財団法人日本エネルギー経済研究所

化石エネルギー・国際協力ユニット石油グループ
森川 哲男

ロシアの石油輸出



	mb/d	
生産量	11.35	2022年1月
原油・コンデンセート	5.0	
石油製品	2.8	2021年12月
合計	7.8	
輸出量		
内数		
欧洲向け	4.7	2021年11月
中国向け	1.6	
日本向け	0.07	2022年1月

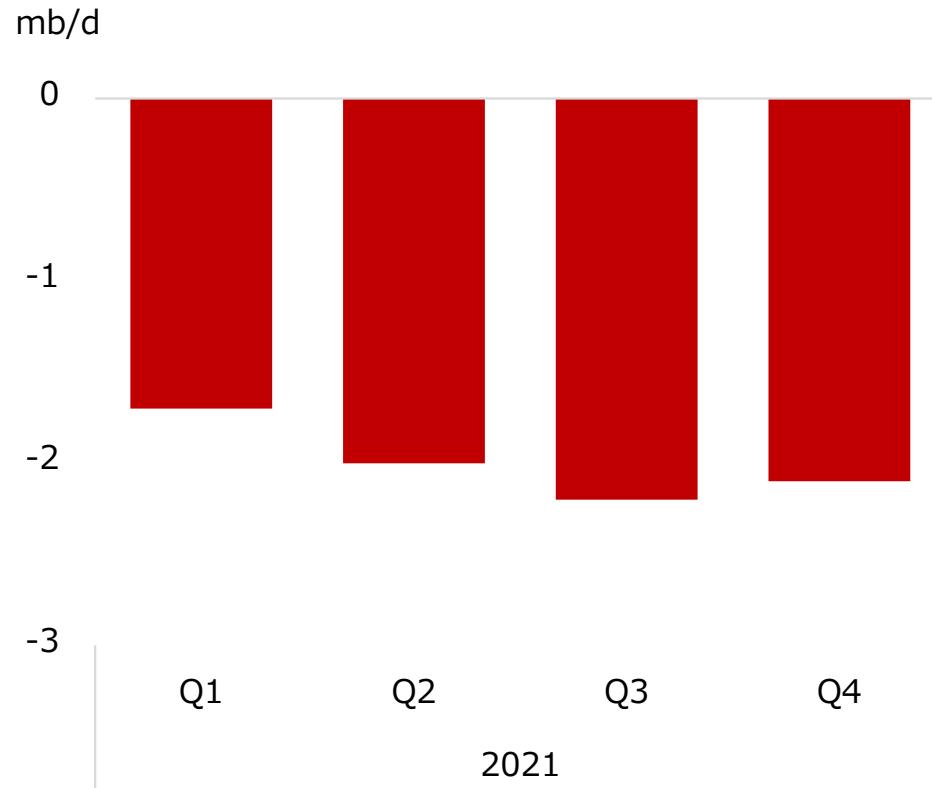
出所: IEA、貿易統計

OPEC+と各國政府・企業の対応

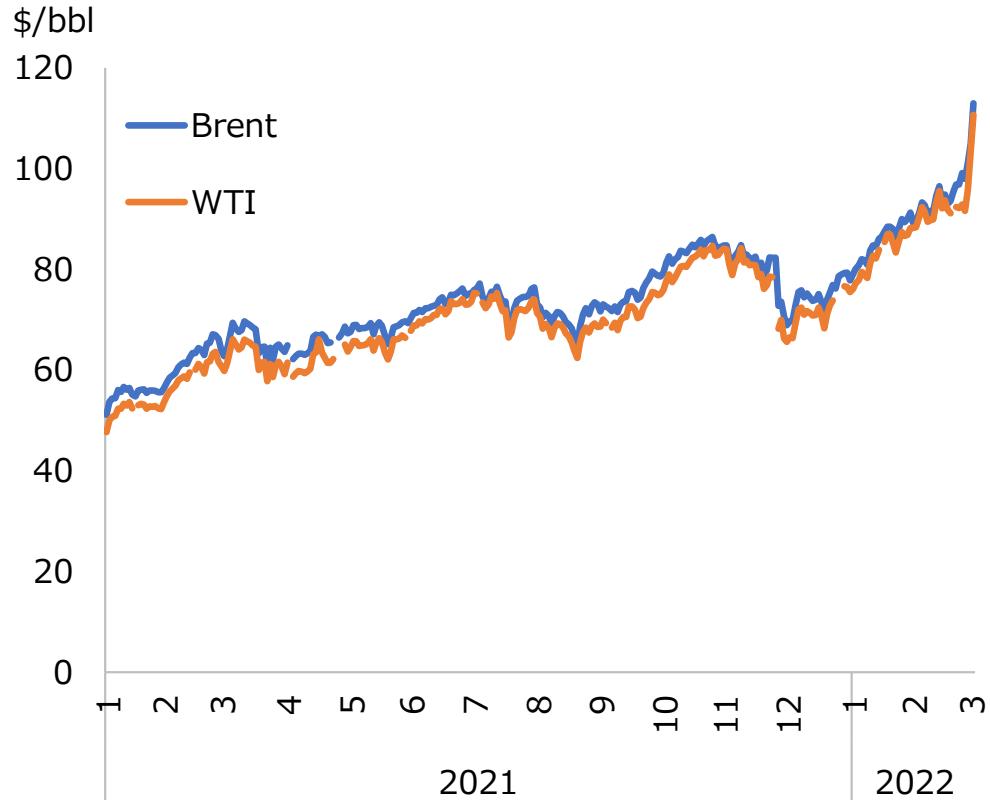
- OPEC+：3月2日の会合では40万b/d/月の増産幅を維持。
但し、ロシアの生産量減少は必至。
- 西側主要国：対口制裁も対イラン制裁並みの強度には至らず。
 - 石油・ガス関連で残る制裁オプション：Swiftからの露銀行完全排除、
(カナダのように) ロシア産石油禁輸
- IEA：6,000万バレル（200万b/d?）の備蓄放出を決定。
- 西側石油会社のロシア事業撤退相次ぐ。
 - Equinor：西シベリア石油事業等撤退
 - BP：Rosneft株売却
 - Shell：サハリン2撤退
 - ExxonMobil：サハリン1撤退
 - Totalや日本企業への撤退圧力も
- ロシア産石油の買い控え増加。
- 中印の輸入がロシアの輸出減少程度の力ギに。

2022年の原油市場

需給バランス



価格推移



出所: IEA、CME、ICE

- 2022年に供給過多ポジションに転換する？
- Brent価格予想レンジは\$70-150。
- ウクライナ情勢だけでなく、イラン核合意再建、OPEC+減産方針、マクロ経済が大きな不確実性。